

発掘成果をふりかえって 2023

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



1 長岡京跡・淀水垂大下津町遺跡 伏見区淀水垂町

遺跡周辺は平安京・京都の外港として栄えた「淀津」の推定地しきないしやよどで、式内社與杼神社の旧社地も含まれます。調査では平安時代後期の溝を確認し、埋土からは、一時期に大量廃棄された食器や木製卒塔婆などが出土しました。



発掘調査の位置



2 平安京右京七条一坊一町跡・御土居跡 下京区朱雀分木町

調査地は、天正19年(1591)に豊臣秀吉が築造した京都の街を囲む御土居の堀にあたります。今回の調査では、堀底に、東西・南北方向に交差する畝状の高まりを構築していることが明らかとなりました。これは、城郭の障子堀(しょうじぼり)と同一の構造で、御土居の機能の一つである、防御の役割を備えていた証と考えられます。



3 山田桜谷1号墳 西京区山田桜谷町ほか

山田桜谷1号墳は、5世紀後葉に築造された全長約48mの前方後円墳です。調査では、前方部斜面の聳石と、埴輪列を確認しました。本調査は京都市文化財保護課が実施しました。



4 平安京右京三条二坊十二町跡・御土居跡・西ノ京遺跡

中京区西ノ京新建町

平安時代の西堀川、西堀川小路の路面と側溝が見つかりました。3時代の路面が確認できており、土と小ぶりの礫により固く叩き締められていました。轍の痕跡も見つっています。



5 北野麁寺・北野遺跡 北区北野下白梅町

江戸時代後期の地鎮遺構を確認しました。2枚の土師器の皿が口縁を合わせた状態で設置されており、皿には、「中央黄帝龍王安鎮守護」「三元三行三妙加持」という呪文が墨書され、中には石英粒が納められていました。



6 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 東山区茶屋町

鎌倉時代の井戸や江戸時代の柱列・土坑などの遺構を確認しました。遺物は安土桃山時代の金箔瓦や、江戸時代の鶴・亀をあしらった珍しい意匠の炉などが出土しています。これら遺物は安土桃山時代の方広寺や、江戸時代の日厳院などの寺院と関係する可能性があります。



7 平安京左京六条二坊七町跡・烏丸綾小路遺跡

下京区五条通堀川西入柿本町

日蓮宗の大寺院である本圀寺の旧境内にあたる調査地では、江戸時代の石組み井戸を検出しました。井戸は、地下室の床面に造られており、底面には桶が据えられた痕跡があります。



8 史跡仁和寺御所跡 右京区御室大内

仁和寺中門の東側に延びる土塀と石組みの溝の調査です。溝は江戸時代前期の仁和寺復興期に構築されたことが明らかになりました。